

2024_0221「九州の晴れた一日（衛星動画）」日々の理科 3485 号

お茶の水女子大学 サイエンス&エデュケーション研究所 田中 千尋

気象衛星の進化は目覚ましいです。現在運用中の「ひまわり 9 号」は、東経 140 度の赤道上の静止軌道にあります。高度 35,786km の高高度起動にあり、日本付近の経度を中心とした全球（地球の半分）をとらえることができます。全球画像は 10 分ごと、日本付近の画像は 2.5 分ごとに更新され、従来機よりもさまざまな波長の観測が可能、雲以外の現象（たとえば黄砂や火山噴煙など）も区別して観測可能です。

私はこのひまわり 9 号の「可視画像」を好んで観察しています。夜間は当然真っ暗なのですが、宇宙から見た地球の真の姿が「可視画像」だからです。非常に解像度が高く、小さな雲塊が発生したり消滅する様子もよくわかります。

2月中旬のよく晴れた日に、九州全域の観察を試みました。赤道上空の衛星から撮影しているので、日本列島は北（高緯度）ほど「斜めから見た」状態になり、縦につぶれた画像になります。緯度の低い九州も少し縦につぶれて見えます。それでも、ちゃんと地図と同じ形で「九州が存在」することに、私は感動してしまうのです。よく見ると桜島の噴煙も写っています。九州南部海上の雲の動きに合わせて、噴煙も向きを変えるのが面白いです。

(2024 年 2 月中旬)

